昭和48年度の施政方針

調和のとれた環境づくりを推進

明るく豊かな"高福祉"も重点に・・・・

3月定例市議会――新年度予算要旨から

昭和四十八年度の具体的な施政方針を決める三月定例市議会が去る三月八日から二十三日間にわたって開かれました。その一日目において市長は、新年度の所信を明らかにしました。以下、所信表明演説から長期展望に立った新津市の発展と市民生活の優先をめざした予算編成の大要を特集してみました。

自然美と都市の調和を求めて

秋葉山開発への布石

拠点都市としての特質もいかして

私が市長に就任以来ここに三か年を経過し、第四年度を迎えることになりました。

おもえばこの三年間、私が約束した公約と各地域、各階層の市民のかたがたとの話し合いのさいのご要望や、その後の運営で市長として果たさなければならないと考えられる数々のことがらがあります。これらの問題のうち、すでに実施完了のもの、目下進行中のもの、考慮計画中のものといろいろありますが、少なくとも新津市が今後どのような姿をとらなければならないか――の方向づけなど、基礎的な目標が定まりつつあるものと信じております。

この間、市議会議員各位からは何かとしった勉励、格段のご協力をいただき、また市民各位からも深いご理解、ご支援をいただき、心から感謝の念を禁じ得ないのであります。いっぽう、五百有余名の全職員の業務に対する熱意と精励も大きな市行政推進の要因と考え、深く敬意を表するものであります。

昨年三月、議会の協賛をいただき発足いたしました「新津市総合開発審議会」は、委員各位の非常に熱心なご努力により基本構想が決まり、議会の議決もいただきましたので、引き続き基本計画を取りまとめ中であります。これによって実施計画も策定して具体的には昭和四十八年度から本格的には四十九年度から実践段階に入るものと考えております。

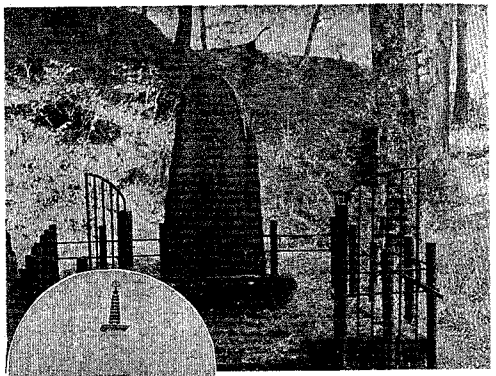
さて、この基本構想の大きな柱である「緑と太陽のある住みよい豊かな高福祉と文教のまち」を基調として諸施策を実施するとありますが、この「緑と太陽」は、私どもの生活に大自然の豊かさ、あたたかさを十分に取り入れるよう配慮し、これを活用すべきであり、「高福祉と文教」は私どもの集団生活に近代的な明るさ、豊かさを推進し、保持させることを意味するものでありましょう。新津市がいかなる発展形態をとるべきであるか、近代都市形成の問題点たる「緑とコンクリート」の調和のとれた環境づくりをいかにして果たすかが今後の課題であろうと思います。

いま、上越新幹線、関越自動車道の新設、新潟東港の整備などにより、県都新潟市は五十万都市の風ぼうを備えつつ、日本海域の一大拠点としての態勢にあります。この新潟市の姿は、大企業的都市の展開形態であって、庶民の生活感覚としては近づきがたい都市形成となりつつあるようであります。このような新潟市にもっとも近接する都市としての私ども新津市は、近郊市町村の庶民生活的な中心拠点として、位置づけられる特質を持つものと考えられます。具体的には、国鉄の電化気動車化によるその運行のスピーディさは、少なくとも五十キロメートル圏、つまり長岡、村上、津川などは、生活的にも実務的にもまた通勤的にも、その通行圏内にあるし、いっぽう主要地方道の集中整備によりモータリゼーションの今日、ますます行動範囲が

大きくなる可能性を有しているものと考えられます。

新津市は、国鉄のローカル運行の拠点として、また、地方主要道の近郊的中心としての態勢を整え得る本質と実力を持っているものと理解されていることから、産業に、経済に、文化に、さらにレクリエーションに中心都市への意欲をもって、新津市発展への諸方策を考えるべきものと信ずるものであります。「緑と太陽」の自然の景勝をいかにして都市形成に結びつけるか、自然との接点としての都市づくりに恵まれた新津市の課題でありましょう。

近在の名勝秋葉山は、平和塔を中心とする見晴公園の開発につづいて秋葉湖、熊沢公園を中心に開発し、さらに奥の景勝地への遊歩道の設置をはかるべく昭和四十七年度では、熊沢公園の現有地の隣接地二千四百五十五平方メートルを買収して拡張し、遊歩道は一千百五十メートルの土地買収と工事を、また、さらにその付近にある野鳥の多く集まる丘陵地二千百三十七平方メートルと、その地上の樹木六百本の買収を完了し、野鳥の巣箱などを設置して野鳥センター整備への礎石としたのでありますが、本年度は、拡張された熊沢公園の公園施設と遊歩道千メートルの延長と



自然の景勝備え、やすらぎの場
――となっている秋葉山
今年はさらに熊沢公園や遊歩道延長などの開発が進められます

を計画しました。これは、自力で大開発を行なうか、県営の都市公園の実現をはかるか、新潟地域広域市町村圏の公園として整備をはかるか、諸情勢の推移をみながらそのいずれによるとしても一つの発展段階の足がかりとしたいのであります。

いっぽう市の東辺は、雄大清新な阿賀野川の流れに面しており、その景勝はすでがたいものがありますが、市内におけるその北端、小阿賀野川の分岐点は、水閘門工事も完成しましたが、建設省から完成後の水閘門地帯の空地のうち、およそ三千九百平方メートルを公園などに無償貸与し、これに近接する堤外地は、平常流量の場合は遊園などに使用できるので、その地積およそ一万二千平方メートルは市で使用したら――との勧奨もあり、いずれ十分調査のうえこれらを遊園地、公園とすべく検討中であり、成案ができた場合は補正予算でお願いしたいと考えているのであります。

他方、西の周辺――小合地区は、信濃川の雄大な流れに添い華麗な花木園芸が多彩に栽培されており、いまや花木愛好ムードは全国的高まりのうちにあり、かつてのチューリップ開発の先達者としての貫録もあり、これらの発展は大きな市民的な期待であろうと思われます。その栽培者の意欲に期待するところが大きいのでありますが、今後ともこれが発展高揚には意を用いるべきものと考えられます。同時に、現在の県営園芸試験場の推移を見ながら「フラワーセンター」というものの構想によって、その花木園芸の推進をはかられるものと思われるのであります。

かくて当市は、中心街からきわめて近接した箇所に、また、車を利用すれば十数分以内の近距離に"緑と太陽"を十分に満喫し得る環境下にあり今後の開発に多くの期待が望まれるところであります。

土地利用計画

工場誘致と工業団地の設定を考慮

次に都市の態勢づくりには土地利用計画が根幹をなすとされております。

新津市は、総面積で七千八百ヘクタールあります。これを課税台帳によって分析すると次のようであります。なおこの数字は、現状と若干の相違は否めないものなのであります。

農地	四、二八五ヘクタール
一般住宅地	二三八〃
併用住宅地	一四〃
農家住宅地	二八五〃
その他住宅地	六〇〃
山林原野	九六九〃
その他（道路、池沼、鉄道用地等）	一、九四九〃
合計……	七、八〇〇ヘクタール

また、農業振興地域整備に関する法律による農地を分析すると次のとおりです。

指定農用地区域　三、三九六ヘクタール

市街区域内農地	二二七ヘクタール
能代川分流予定地、新津バイパス道路予定地	一一二ヘクタール
河川堤外農地	一三八ヘクタール
山峡部農地	一一一ヘクタール
農家宅地地付き農地	一八七ヘクタール
合計……	四、一六一〃

（昭和45年農業センサスによる調査数値）

――課税台帳と四十五年のセンサス調査による差は、台帳面が田・畑でも実際現況では宅地等に転用されているものなどもあります――

現在の一般住宅地、併用宅地は、いちおう二百五十二ヘクタールでありますが、現在農地のうち市街化区域内の二百十七ヘクタールに加えて山林原野のうち、その丘陵地帯はかなりの宅地が可能であることからして指定農用地区域によることなく、住宅地域倍増はきわめて容易であり、恐

マイホームの資金づくりから設計施行まで…
高級木造住宅設計・施行
新潟ハウジング
新津市役所となり　TEL②7151

表具
鈴木一心堂
一級技能士 訓練指導員　法定防火壁装工事店 建設業登録店　本町3☎2-2035

女性の・感謝祭　資生堂春の化粧品デー
花椿会へお入り下さい

すてきなプレゼントが9品も……
ひとり占めにしたいプレゼント
3月23日からプレゼントが出つくすまで
本町2丁目 マリヤ
第四銀行が向い、北越銀行がとなり